

A Disaster and Environmental Education

日本学術会議公開シンポジウム

災害と環境教育

内発的なESDからの復興の道筋の展望

日時: 2013年3月17日(日) 12時30分~18時

場所: **日本学術会議講堂** 〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ口乃木坂 徒歩1分

主催: 日本学術会議

共催: 立教大学ESD研究所、
立教SFR重点領域プロジェクト研究、
JST RISTEX「いのちを守る沿岸域の
再生と安全・安心の拠点としての
コミュニティの実装」プロジェクト
後援: (公益社団法人) 日本環境教育フォーラム



3.11から2年経過したこの時期に、ハードな面からの復興がいまなお主流の状況の中で、この時期だからこそ可能になり、また、復興の要になってきている、「ひと」とコミュニティの視点からの復興のあり方の理念を明確に打ち出すことが求められている。

日本学術会議環境学委員会では、2012年12月5日付けで、「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成の緊急提言」を出した。

本シンポジウムでは、その提言の具体的な取り組みと、そこにおける内発的なESD（持続可能な発展のための教育）の視点の重要性について提起したい。

ハード面からの復興の手法と、それとせめぎ合うソフト的な計画系の復興の手法が中心的に展開している中で、「ひと」とコミュニティの視点からの復興におけるソフト的な点で必要なことは何か、そこにおける「学び」の重要性、広い意味での「環境教育」の重要性についてシンポジウムの中から明らかにする。

そのことを通じて、学校教育や社会教育の中で取り組まれている従来の「防災教育」の枠組みを脱して、「災害に学ぶ」という視点を入れた、「災害教育」と、災害が多い日本ならではの「環境教育」の新たな展開について提起を行い、3.11以後の「教育」全体の枠組みの転換の道筋を提示したい。

日本学術会議公開シンポジウム

災害と環境教育

内発的なESDからの復興の道筋の展望

PROGRAM

開会の挨拶

（「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成の緊急提言について）
石川幹子（日本学術会議環境学委員長、東京大学大学院工学系研究科教授）

シンポジウムの趣旨説明

鬼頭秀一（日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会委員長、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

基調講演「災害と環境思想」

桑子敏雄（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

災害と復興における「ひと」と「コミュニティ」の「力」

——地域コミュニティの持続可能な発展を、行政と住民の協働で実現していく場の形成に向けて
行政の視点から
鳥居敏男（環境省東北地方環境事務所長）
NPOの視点から
畠山信（NPO森は海の恋人副理事長）
地域コミュニティの視点から
千葉正海（南三陸町伊里前契約会前会長）

災害と復興における教育の課題—学校教育と地域社会、ESD

阿部正人（南三陸町立伊里前小学校教諭）

失われた自然と地域の人たちの関わりについての

聴き取りアーカイブの作成と復興計画への展開

聞き書きプロジェクトの展開
久村美穂（RQ聞き書きプロジェクト代表）
石巻市旧北上町における住民主体の復興計画の試み
宮内泰介（北海道大学大学院文学研究科教授）

福島現場と災害教育の取り組み

進士徹（あぶくまNSネット代表）

災害から学ぶ

広瀬敏通（RQ災害教育センター代表）

コメンテータ

阿部治（立教大学ESD研究所長・教授）
関礼子（立教大学社会学部教授）

パネルディスカッション（コーディネータ：鬼頭秀一）

閉会の挨拶 小澤紀美子（東海大学教養学部教授）



お申し込み先

鬼頭秀一 kito@k.u-tokyo.ac.jp

〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東大柏キャンパス環境棟622号室